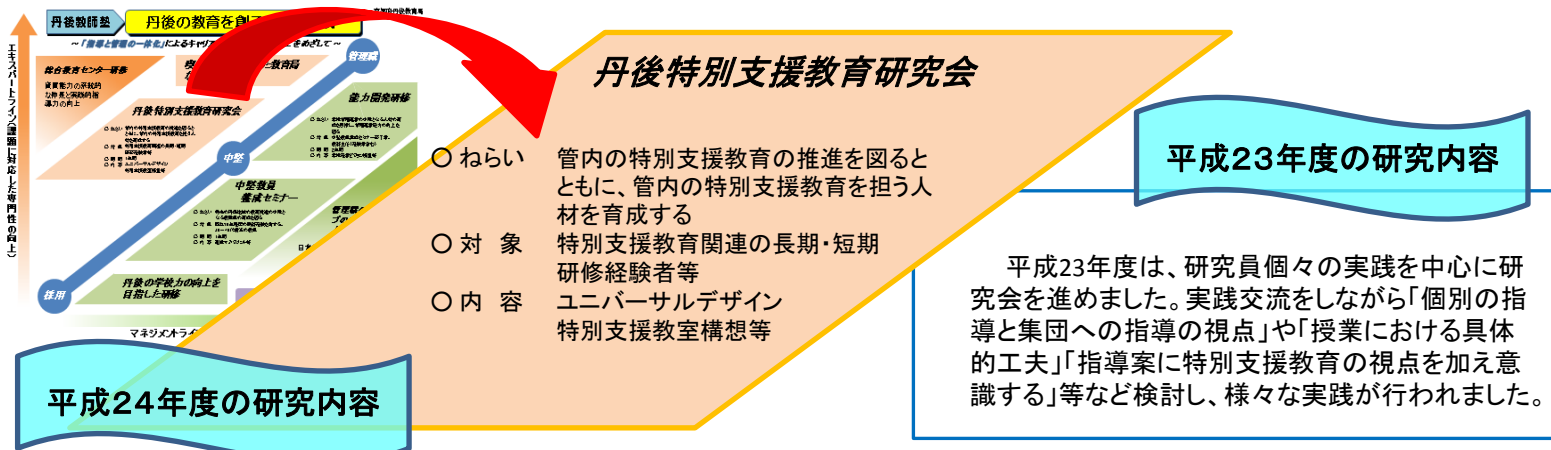




# 丹後の特別支援教育NEWS

京都府丹後教育局

## 丹後特別支援教育研究会の取組



### 丹後特別支援教育研究会

- ねらい 管内の特別支援教育の推進を図るとともに、管内の特別支援教育を担う人材を育成する
- 対象 特別支援教育関連の長期・短期研修経験者等
- 内容 ユニバーサルデザイン  
特別支援教室構想等

### 平成23年度の研究内容

平成23年度は、研究員個々の実践を中心に研究会を進めました。実践交流をしながら「個別の指導と集団への指導の視点」や「授業における具体的工夫」「指導案に特別支援教育の視点を加え意識する」など検討し、様々な実践が行われました。

### 平成24年度の研究内容

丹後特別支援教育研究会は、丹後教育グランドデザイン中間目標C「丹後の教育を創る人材の育成」として、平成23年度から立ち上げ、管内の特別支援教育の推進を図るとともに、管内の特別支援教育を担う人材を育成することをねらいに実施しております。研究員は、特別支援教育関連の長期・短期研修経験者です。

平成24年度は通常学級における特別支援教育の視点を大きな柱として、「みんなが分かる学習支援」をテーマに、2つのグループに分けて研究しました。グループ毎の研究テーマは以下のとおりです。

#### グループ I

1年生の「わかる・できる」の扉を開く！

～通常学級で読み書きに困り感がある1年生や保護者のために～

どの子どもも学びやすい！楽しい！いきいきした学級づくりへの提案

～特別支援教育の視点はエッセンス～

#### グループ II

### このリーフレットについて

丹後教育局では、平成24年度丹後教師塾 丹後特別支援教育研究会の研究成果として、研究員の先生方の協力を得て、発達障害を含むすべての子どもが学びやすい授業・成果の見られる学級経営の実践を管内の小・中学校等に広めることを目的にリーフレットを作成しました。

このリーフレットは、平成24年度研究員の研究内容を紹介しています。内容は、研究グループ I と II による研究のエッセンスのみに絞り、小・中学校の学級担任が通常学級に在籍する発達障害を含む障害のある子どもたちのための支援を学級全体の指導に生かしていただけるよう工夫しています。

子どもの実態を正しく把握し、ニーズに応じた指導方法を学級全体で実施することで効果が全体に広がり、全ての子どもにとってわかりやすい授業につながるようになります。ぜひ、ご活用ください。

事務局 京都府丹後教育局

# 1年生の「わかる・できる」の扉を開く！

～通常学級で読み書きに困り感がある1年生や保護者のために～

## 1 「読めない！書けない！」で困っている子はいませんか？

文章がすらすら読  
めないなあ…。

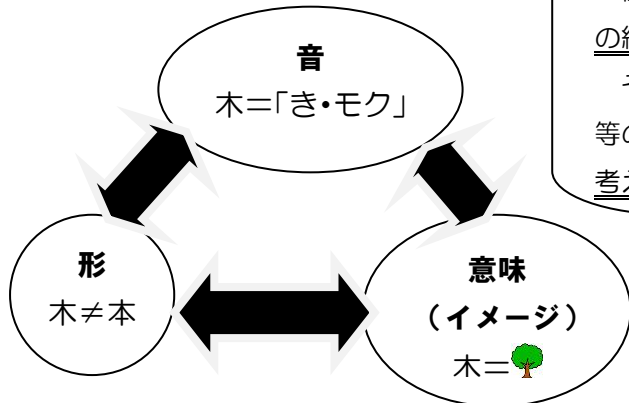
漢字の読み書きが覚  
えにくいなあ…。



平仮名の読みが覚え  
にくいなあ…。

何でだろう？

## 2 なぜ、読めないの？書けないの？



例えば、漢字では音・形・意味（イメージ）の3つの結びつきが弱いことが関係あるんだよ。

その他にも、音読では言葉のまとまりが捉えにくい等の原因（理由）があるので、子どもの立場に立って考える必要があるんだよ。



## 3 読み書きで困っている子は…。

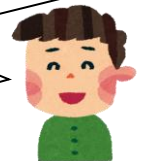
どうやって考えを伝え  
たらいいのだろう…。

どうせ、私はできないし…。

内容がよくわか  
らないなあ…。

もし、読み書きに自信がも  
てたら…！？

わかる・できる⇒楽しい  
⇒もっとやりたい！



## 4 学習活動に「見る・動く・触る・楽しむ」を取り入れると学習意欲・集中力を高める！



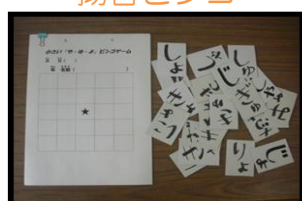
<具体例>

- 「文字に絵を添える」「表記に合わせて手を叩く」
- 「空中や背中に書く」「漢字パズル」
- 「絵と文字合わせて神経衰弱」

## 5 こんな時に、こんな場面で、だれでも簡単に指導することができる！

★授業の導入や余った時間・休み時間・放課後補習・家庭学習でも★

拗音ビンゴ  
ゲーム感覚で声に出す機会を多くします。



拗音ビンゴ

拗音サイコロ



拗音サイコロ  
サイコロを振るという動きが入ります。

他にも、漢字イラストカードを使った漢字指導なども実践してみました。

まずは、できそうなことからやってみませんか。ぜひお問い合わせください。



どの子も学びやすい！楽しい！いきいきした学級づくりへの提案  
～特別支援教育の視点はエッセンス～

学級づくりの視点  
児童生徒の理解と学級づくり



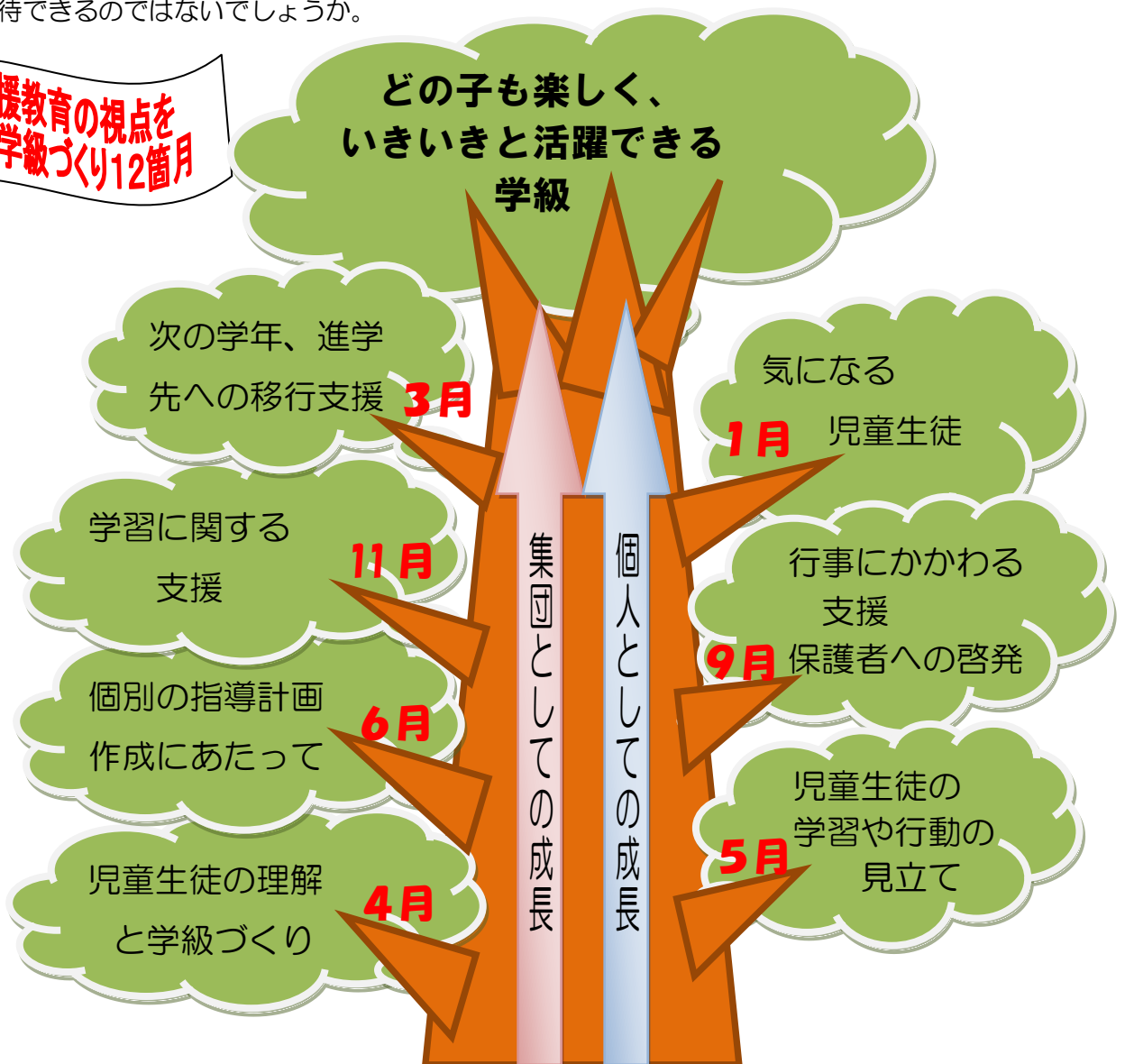
私たちが日々接する子どもたちは、それぞれに歩み方や歩むスピードは違うにせよ毎日の生活の中でさまざまなことを学び、経験し、成長しています。私たち教師はもちろん、保護者やまわりの大人は少しでもその手助けをしようと関わり、支援をしています。

能力を伸ばそうとする子どもたちは、支援する教師の関わり方によって、子ども自身の持ち味を發揮できたり、自分に自信がもてたりできると考えます。

例えば教室にいる子どもたちは、それぞれ感じ方やとらえ方が違ったり、得意な学習の仕方が違ったりします。だからこそ、子どもたちが充実していきいきと活躍できる学級をつくるために、支援する教師の関わりに特別支援教育の視点を取り入れることを提案します。

「子どもたちをしっかりと見つけ、集団の中でどのような支援を行うか」について、特別支援教育の視点で検討することによって、自分が大好きになったり、自己有能感が高まったり、学級集団としての成長が期待できるのではないのでしょうか。

特別支援教育の視点を  
生かした学級づくり12箇月





# 学級づくり 12箇月



4月	<p><b>児童生徒の理解と学級づくり</b></p> <p>新しい学年がスタートする4月。個々の子どもの状況の引き継ぎと、支援の継続が必要な時期です。新しく出会った子どもの状況を把握する上で必要になる視点や、学級づくりを始める上で注意すべきポイントなどを、特別支援教育の視点から考える必要があります。</p>
5月	<p><b>児童生徒の学習や行動の見立て</b></p> <p>新しい学級での生活にも少しずつ慣れてきた子どもも少しずつ自分を出せるようになり、さまざまな課題が見えてくる時期になります。</p> <p>普通の授業の中で、学習にむかひにくい子どもはいませんか。友だち関係のトラブルが多発する子どもはいませんか。</p> <p>学習指導、生徒指導の中に特別支援教育の視点を含めて考えることで、そのつまずきの要因や背景が見えてくる可能性があります。</p>
6月	<p><b>個別の指導計画作成にあたって</b></p> <p>個別の指導計画は、子どもを支援する上でとても有効なツールになります。しかし、どんな書き方をすればよいのか難しく考えてしまいがちです。個別の指導計画作成の上での、子どもたちを見る視点や、有効な手立ての例、ポイントとなることなどを知ることによって、「有効に活用できる」個別の指導計画作成することができます。</p>
9月	<p><b>行事に係る支援と保護者への啓発</b></p> <p>体育的行事や文化的行事が多く行われ、集団として大きく成長が期待できる時期ですが、一方で、集団での活動に参加しづらい子や、うまく自分が発揮できない子も出てきがちな時期です。集団として、全ての子どもを巻き込んだ特別活動になるよう、特別支援教育の視点でできることはどんなことでしょうか。</p> <p>また、就学指導委員会等で次年度の就学についての検討も行われる時期になります。保護者との関係づくりや相談活動の充実が望まれる時期です。</p>
11月	<p><b>学習にかかわる支援</b></p> <p>学校行事が一段落し、学力の充実を図る時期になります。学習内容も充実する中で、落ち着いて学習に取り組むために必要な授業づくりのポイントを、特別支援教育の視点から検討します。誰もが学びやすく、誰にとっても有効な支援を行うことで、落ち着いて学習でき、分かる喜びを感じることができると考えます。</p>
1月	<p><b>気になる児童生徒</b></p> <p>学級の中には、発達障害等の診断を受けている子や診断は受けていなくてもその傾向がみられる子など様々な課題を抱えた子どもが在籍しています。子どもたちが見せる学習面や行動面での課題をどのように受け止め、支援していくか、特別支援教育の視点で検討することが有効です。</p>
3月	<p><b>次の学年、進学先への移行支援</b></p> <p>1年間のまとめの時期になり、次の学年を見通した支援が必要になります。とりわけ小学校から中学校、中学校から高等学校など、学校生活の環境が大きく変わる場合などは、丁寧な引き継ぎが必要となります。個別の教育支援計画など、特別支援教育の視点から子どもたちの状況をしっかり伝えるためには、その視点と具体的な内容などを知ることが大切です。</p>

※ 学級を経営していく上で、特別支援教育の視点が生かせる場面は、ありとあらゆるところにあると考えます。今回、紹介したような「時期に応じたポイント」や「知っておくと役に立つ支援の在り方」などの他にもたくさんあります。私たちの研究グループⅡでは、時期に応じたリーフレットを作成し、日々教育現場で活躍されておられる先生方のお力に少しでもなれたらと考えています。